校内地域連携推進委員会の取組み

概要

事業の指定を受けてから、今年度本校で開かれた「校内地域連携推進委員会」の活動内容を紹介していく。なお、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大による休校のため、４・５月の活動はほとんどできず、学校が再開した６月以降の取り組みの紹介となる。

● ７月３日（金）　第１回校内地域連携推進委員会（CASP 会議）

７月３日に文科省指定委託事業第１回校内連携推進委員会（CASP 会議）を開催した。委員は静岡文化芸術大学文化政策学科准教授船戸修一さん、地域協働学習実施支援員の水野綾子さんであり、委員の方々とともに“地域の課題に立ち向かい、地域のために貢献できる人材”の育成を目指し、協議する。第１回は、昨年度の取り組みの経過と、今年度の予定・計画についての確認となった。熱高ラボ・熱海ラボは今年度の予定や計画、教務企画グループは令和４年度入学生からの総合的な探求の時間の構想、商業科からレモンの木・高校生ホテル・起業家育成プロジェクトの計画、 評価開発グループは昨年度作成した評価のルーブリックについて今年度の具体的な使用や改善の計画について、それぞれ確認・協議した。

● ９月 24 日（木）　第２回校内地域連携推進委員会（CASP 会議）

９月 24 日に文科省指定委託事業第２回校内連携推進委員会（CASP 会議）を開催した。協議では、総合的な探求の時間における取組として、熱高ラボ・熱海ラボの進捗状況や、今後の具体的な取り組みについての計画についての協議、商業科からは高校生ホテルの取り組みの進捗状況、福祉科からは今後の計画、評価開発グループからは評価ルーブリックをもとにした生徒用のチェックシートの作成など進捗状況について説明した。

● 10 月 22 日（木）　第１回運営指導委員会

10 月 22 日に第１回運営指導委員会を開催した。運営指導委員の先生方や高校教育課の先生方を招き、事業概要の説明、熱高ラボ・熱海ラボの進捗状況の確認、商業科からはレモンの木・起業家育成プロジェクトや高校生ホテルについて説明をした。また、令和４年度入学生からの総合的な探求の時間の実施計画についての案も提示され、今後の探究活動の位置づけを考えた。協議の中で、ご指摘いただいたのは、これから求められていくものはやはりコミュニケーション能力であり、聞く力・話す力をつけるためにこちらが様々なアプローチをしていくことが大事であるということを改めて確認した。

● 10 月 30 日（金）　「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット（オンライン会議での開催）

10 月 30 日に文部科学省主催の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミットが開催され、今年度はオンライン会議という形で参加した。開催テーマは、「学校と地域の連携・協働の在り方について」であり、全国から多くの学校が参加し、オンラインでのグループワークでは他校の取り組み状況など情報交換が行われた。

● 11 月５日（木）　第１回コンソーシアム連携会議

11 月５日に第１回コンソーシアム連携会議を開催した。ここでは、校内の CASP 委員の先生方だけではなく、教育委員会高校教育課、熱海市役所、伊東法人会、多賀小学校、多賀中学校、熱海商工会議所、伊豆半島ジオパーク（敬称略）と協働機関の代表の方々にお越しいただき、今年度の事業概要や今後の計画について協議をした。10 月の運営指導委員会につづき、各グループからの活動の進捗状況と今後の取り組みの概要について説明した。

● ２月 15 日（月）第５回校内連携推進委員会（CASP 会議）

２月 15 日に第５回校内連携推進委員会（CASP 会議）を開催した。今年度最終ということで、各グループから１年間の活動の総括と、３年目となる次年度の取り組みの計画について協議した。熱高ラボ・熱海ラボは休校の影響で全体的に時間が足りず、情報収集が難航して内容の濃い提案を考えるのに苦労したという状況の説明、教科グループからは、今年度の教科横断的な取り組みの報告、商業科からは高校生ホテルの実習の評価についての報告があった。実習の評価は自己評価と企業側の評価でずれが生じることがあり、改めて評価について考えさせられた。また、評価開発グループは、取り組みのまとめと次年度の計画について説明した。そのなかで、次年度以降の取り組みとして、CASP で目指していることをどのように他教員に伝え、普段の教育活動に生かしてもらえるかを考える、とあった。教職員全体でこの取り組みについて共有し、地域に求められる人材を育成していくためにこれまで以上に様々な取り組みをやっていくことを確認した。